

湿原観察会実施



これまで外来植物イタチハギの駆除や空き缶拾いでゆつくり自然を見つめることがありませんでしたが、当日は自生のワサビやヤマシャクヤク、ツクバネソウ、ヤマウツボなど、これまで目にすることのできなかつた花に出会い、改めて猪の瀬戸湿原の自然の豊かさに感激しました。

早く、観察道の整備を進めて猪の瀬戸湿原の自然すばらしさを多くの人たちに知ってもらいたいものです。

これまで、主として湿原環境保全のための作業を中心に活動してきましたが、5月3日(祝日)に保全の会主催の観察会を実施しました。

多くの人たちに多様な生物が生息する湿原の大切さを知ってもらう観察会の開催は、自然保護団体NPO法人の使命ともいえます。

まだ本格的な観察会ができるほど整備されていませんので、市民に向けて広く広報しませんが、会員と一般参加者10名が集まりました。

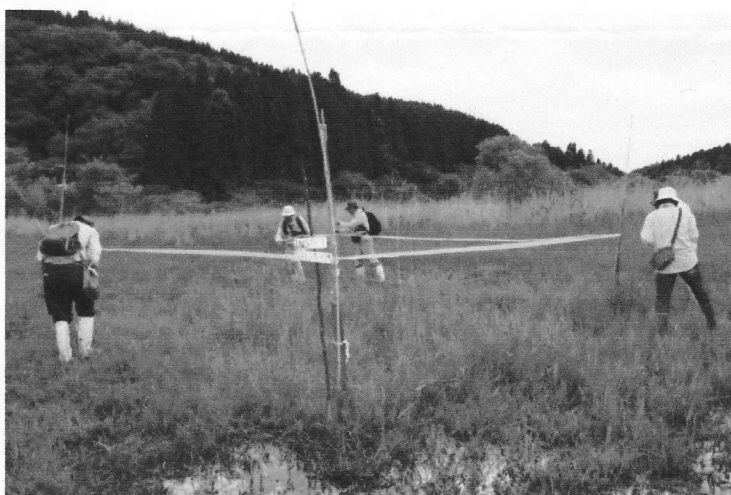


湿原内に自生するワサビ

実験区の植生調査始まる

オギ湿原、ヨシ湿原、ツルヨシ湿原に設定された実験区(火入れ区、刈り取り区、放置区)の植生調査が始まりました。植物の生长期間である5月~10月まで毎月1回、火入れや刈り取りの影響を植物の生長度合いを見ながら調べています。今年が最終年になります。

自然界は気温や水分(雨量)の影響を強く受けますが、その他、風や土壌養分、日当たり、動物の踏圧、食餌など複雑な要因が精密機械のように絡んでいて、火入れ効果の結論を導き出すことは大変難しいことです。



実験区内の植生調査